

目次

巻頭言・サブカルの街「高円寺」に見るデザインの良し悪し ——— 1
■特集 北陸地区からの報告 ——— 2, 3, 4, 5
金沢都心軸から見えてくるもの
「金澤町家」の現在
兼六園における環境デザインと音風景
社の魅力をサウンドから探る
投稿・景観デザイン試論 ——— 6, 7
連載・EEye 住まい方から考える 多文化・多世代共生を一步まえに
I部 多文化共生・多世代交流の住まい方 報告 ——— 8, 9, 10, 11, 12
事務局報告 ——— 12

発行日=令和2年2月20日

発行人=

清水泰博 yas_kiyomizu@yahoo.co.jp

編集=

上綱久美子 tandk@sepia.ocn.ne.jp

小泉雅子 koizumim@tamabi.ac.jp

佐々木美貴 mikisan@blue.ocn.ne.jp

山内貴博 yamauchi-t@kyobi.ac.jp

◆日本デザイン学会環境デザイン部会事務局
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
東京藝術大学 美術学部デザイン科
清水研究室気付
TEL 050-5525-2206 FAX 050-5525-2496
Mail 平松早苗 jssd-ed_hira@mbr.nifty.com

巻頭言

サブカルの街「高円寺」に見るデザインの良し悪し

田崎冬樹 (横浜美術大学)

私はグラフィックデザインとイラストレーション・絵画の分野を学び、今でも後進の育成に努めている。それもあって街中に溢れている視覚的な表現が気になっている。縁あって2018年度より部会に入会させていただいたが、今回は環境的な視点で以前より気になっていたことを綴らせていただく。

前職の職場が近くにあったことから当時、帰路の寄り道によく高円寺の商店街を散策した。JR高円寺駅を中心として南北に分かれる商店街は大小合わせて14も存在している。戦前より栄えているいわゆる「高円寺純情商店街」や古着屋、雑貨屋など多くの若者に人気の高い「高円寺バル商店街」や「ルック商店街」など今でも多くの商店でひしめき合っている。「高円寺」の由来である高円寺村の歴史は江戸時代まで遡るが、今日のような街並

みになっていった経緯としては1922年旧国鉄が高円寺駅を開業した翌年におきた関東大震災をきっかけに郊外への人口の転出の受け皿として多くの人が高円寺周辺に移り住んできたことにある。それとともに自営業者、小売業も多く移り住み、商店街として賑わっていくこととなる。

「サブカルの街」の異名通り、飲食店はもちろん古着屋、雑貨屋、レコード店からライブハウスなど多彩な小売店が軒を連ねている。扱う商品も多彩であればその店構えも非常に多彩で他の地域ではお目にかかれなような看板デザイン、キャラクターデザインやロゴマークなどに巡り会える。中には一見店舗名すらわからないような店も珍しくないほどである。開店前のシャッターにも様々な装いがあり、歩いていて楽しい。また、路地裏や自動販売機、標識の支柱などに至るまで落書きやステッカーなども多く見られる。もちろんこれらは無許可で書かれたり貼られた違法行為であり、街の景観環境を著しく損なう原因である。高円寺だけではなく他の繁華街などにも多く見

られるステッカーや落書きは大半が意味不明なものであり、何らメッセージ性は感じられない。これら店舗の意図的なデザインと違法行為の無秩序なデザインが混在している様を悪しき例として授業でも度々学生に紹介している。しかし不思議なことに高円寺を歩いているとこの無秩序なデザインをも街ごと許容しているかのような錯覚に陥ってしまう。雑多な街並みに無秩序に貼られたステッカーなどが非常にマッチしているのだ。古いステッカーの上には次々と新しく別なステッカーが重なり、新陳代謝を繰り返しているのだ。

高円寺自体新陳代謝が早い街として知られている。しかし新しい店舗ができていく一方で古いものを扱う店も非常に多く残されているのも特徴である。昔ながらの商店街に然るべき景観環境を説いていくのは無粋かもしれない。同じ中央線沿線でも中野や吉祥寺とは違った独特な様相を見せてくれる高円寺に今後も変わらぬ雑多な光景を個人的に期待せざるをえない。